World Vision

この子を救う。未来を救う。

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

2014年　クリスマス募金による活動報告書

●募金件数：11,551件　●募金金額：93,556,626円　●募金期間：2014年10月1日～2015年3月31日

皆さまからいただきましたクリスマス募金により、アフリカやアジアで、食糧や水の不足に苦しむ人々に支援を行い、多くの子どもたちの健やかな成長を支えることができました。感謝とともに、報告いたします。

ルワンダ共和国　ー命を奪う栄養不良を克服するためにー

支援地域の状況

ルワンダでは、民族抗争により生じた1994年の大量虐殺とその後の混乱期に蔓延したHIV／エイズにより、多くの子どもたちが親を失い、過酷な状況の中で育ちました。今でも子どもたち1,000人のうち52人が、5歳まで生きることができません。日々多くの幼い命を奪っているのは、直接的には、肺炎、下痢、マラリアなどの感染症ですが、これらの感染症を引き起こす大きな要因となっているのが栄養不良です。栄養不良状態が長引くと、たとえ5歳を超えて生き延びることができても、身体の成長や知的発達が阻害されてしまいます。ルワンダでは5歳未満の子どもの44%が、慢性的な栄養不良状態にあります。

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動

ワールド・ビジョン・ジャパン（以下、WVJ）は、ルワンダ共和国東部州カヨンザ郡ルカラ地区で、2010年10月より、チャイルド・スポンサーシップによる「グウィザ地域開発プログラム」を開始し、長期的で包括的な支援を続けています。クリスマス募金により、同じ地域で、子どもたちの栄養改善に特化した以下の活動を実施しました。

1. 栄養に関する知識と技術の普及

地域内の保健担当行政官、医療従事者、村落保健員、村のリーダーなど合計200人に対して、栄養に関する知識や栄養不良の予防と対処法に関する研修を行いました。また、栄養不良の子どもがいる母親を対象に、12日間の集中的な研修を行い、栄養に関する基礎知識や子どもの成長に合わせた母乳や食事の与え方などを伝えました。その他に、現地で手に入る食材を使った栄養バランスのよい食事の調理実習を行い、調理した料理はその場で栄養不良の子どもたちに提供しました。これらの活動の結果、93人の5歳未満の子どもが栄養不良状態から回復することができました。

村落保健員のデニスさんと彼女が担当する村の子どもたち

2. 家庭菜園の普及

支援地域での食事は、マトケ（イモのような食感の青バナナ）、キャッサバ、トウモロコシといったエネルギー源となる食材に偏りが見られました。単にお腹を満たすだけでなく、緑黄色野菜を食べることでビタミンやミネラルなどの栄養素もバランス良く摂取できるよう、家庭菜園の普及に努めました。支援地域内の300世帯で家庭菜園を開始し、特に貧しい90世帯に対しては150kgの野菜の種子を配布することができました。

家庭菜園のキャベツ（上）とトマト（右）

3. 家畜飼育の普及

栄養不良の子どもがいる家庭に対して、乳牛、山羊、鶏などを支援し、ミルクや卵により子どもたちの栄養状態が改善しました。特に鶏は、これまでに1,500羽、1,600kgの餌を支援し、地域内の各地で養鶏が始まっています。鶏の一部は学校に支給し、教師や保護者が飼育し、毎朝とれる卵は栄養不良の生徒に提供しています。また、鶏糞は肥料にし、学校の敷地内でトウモロコシを栽培するために利用しています。収穫したトウモロコシは学校給食で提供されており、このように鶏の支援が良い循環を生んでいます。

「アルシーネが楽しそうにしている姿を見ていると、心に喜びが湧き上がってきます」

アグネスさん（37歳）は、アルシーネくん（2歳）を膝にのせ、愛おしそうに見つめます。

「私には5人の子どもがいます。末っ子のアルシーネが産まれてすぐに、夫が病に倒れ、家族を残して亡くなりました。生活は一気に苦しくなり、貧しさのためアルシーネには十分に食べさせてあげることができず、この子は栄養不良に陥ってしまいました。そんな時に、WVの支援が始まり、アルシーネは栄養価の高い食事を与えてもらいました。また、私は栄養に関する知識を学び、食事の量だけでなく内容にも気をつけるようになりました。アルシーネはワールド・ビジョンの支援を受けてから3ヵ月後には、ご覧の通り、元気いっぱいになることができました。生活が苦しいことに変わりはありませんが、この地域で得られる食材で、栄養バランスのよい食事を提供できる方法を学ぶことができたのは、家族にとって大きな助けとなっています。」

担当：松岡スタッフのコメント

「千の丘の国」と呼ばれるルワンダは、その名の通り、どこまでも小高い山々が連なる美しい国です。「千の笑顔の国」と誇らしげに語る人々もいて、確かに事業地ではたくさんの笑顔の花が咲いていました。栄養不良を抱えていた子どもたちが回復し、元気に外を駆け回っている姿や、それを嬉しそうに眺める母親の横顔を見ながら、活動が人々に喜びをもたらしていることを実感しました。この国の未来を担う子どもたちが、これからも健康な生活を送り、十分に学び、彼らに備わった大きな可能性を開いていってほしいと願います。皆さまのご支援は、確実にルワンダの人々の心に届いています。心より感謝申し上げます。

WVが支援した家庭菜園にて、松岡スタッフ（後列左から2人目）、地域の住民と子どもたち、グウィザ地域開発プログラム責任者（一番右）

ソマリア連邦共和国 ―頻発する干ばつに苦しむ人々のために―

支援地域の状況

東アフリカの「アフリカの角」地域に位置するソマリア連邦共和国（以下、ソマリア）は、過去30年以上にわたった内戦による国土の荒廃と、頻発する干ばつ等により、重大な人道危機状態が続きました。さらに、2011年に起きた大干ばつにより深刻な食糧不足となり、子どもや妊産婦、結核やHIVとともに生きる人々を始め、多くの国民が栄養失調に陥りました。

ワールド・ビジョンの活動

ワールド・ビジョン（以下、WV）は国連世界食糧計画（WFP）と協力して、ソマリア全土（ソマリランド、プントランド、サウスセントラル）において、5歳未満の子ども、妊婦、及び、結核やHIVとともに生きる人々がいる世帯などを対象に、豆類、食用油、シリアル等の食糧配布を行いました。

また、妊婦や授乳中の母親、5歳未満の子どもの母親を対象に、子どもと妊婦・母親自身の栄養改善のため、家庭を訪問し栄養指導を行いました。

加えて、持続的な食糧生産力の拡大のために、農地の改良、灌漑や浅井戸修復、道路インフラの整備などを行いました。これらの公共事業に参加した住民に対して、労働の対価として食糧を配布しました。

訪問栄養指導の様子

公共事業に参加した住民への食用油と穀類の配布

浅井戸の修復

担当：平井スタッフのコメント

皆さまのご支援により、今年もソマリアを始め南スーダン、スーダン、ミャンマー等でWFPとの協働での支援活動を実施することができています。心より感謝申し上げます。みなさまからのご支援を通して、支援地域のたくさんの子どもたちが、健やかに成長するきっかけを得ることができました。WVは食糧を配るだけではなく、干ばつなどの状況下でも生計を維持していけるようコミュニティの対応力（レジリアンス）を向上させるための活動も継続して行っています。引き続き、ご支援をよろしくお願いいたします。

平井スタッフ（後列・中国にて）

東ティモール民主共和国 ーきれいな水で笑顔も輝くー

支援地域の状況

東ティモール民主共和国（以下、東ティモール）は、東アジア太平洋諸国の中でも最も貧しい国の一つです。中でも山地が大半を占めるボボナロ県は、住民の大多数は小規模農業からの収穫のみで貧しい生活を強いられており、道路も県の大部分で整っていません。

特に深刻なのは水の問題です。集落が水源から離れているか、利用できる水源があったとしても、飲料に適していない場合も多くあります。さらに、トイレを使用する習慣や手洗いの習慣がなく、衛生環境が劣悪であることも、下痢や感染症といった健康上の問題の大きな要因です。

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動

WVJは東ティモールのボボナロ県で、2013年3月より、皆さまの募金と日本政府の助成金（外務省のNGO連携無償資金協力）により、住民の衛生的な水の確保と衛生環境を改善するため支援を行っています。

これまでに5つの集落で給水設備の建設を行い、合計で28kmに及ぶ水道管が設置されました。その結果、約2,000人の住民の大部分が自宅から100m以内で水道を利用できるようになり、最低でも一日一人当たり30リットルの水を利用出来るようになりました。給水設備の建設はWVJが資材提供と技術監督を行い、住民が労働力を提供する形で建設が行われました。これは住民が建設作業を行う事を通して、住民自身が給水設備の補修方法を理解し、所有意識が作られることで、建設後の維持補修作業が継続されるようにするためです。

また、5つの集落と事業地の小学校で、手洗い場所とトイレの設置・使用の大切さを伝える衛生啓発活動を行った結果、新たにトイレを設置した家庭も見られるようになりました。

3年目の活動は、新たに1,800人の住民の水・衛生状況を改善することを目標として進めています。

パイプの設置を行う住民

小学校での衛生啓発活動

イルダちゃん（一番左）と地域の子どもたち

「遠くまで水を汲みにいかなくてもよくなって、ホッとしています！」

イルダちゃん（13歳）の住む集落では、以前は多くの子どもたちが、灌木に覆われた峡谷にある小川まで、1日に数度も水を汲みに行っていました。「川から家まで1kmほどの道を10～15リットルの水を運ぶのは大変でした。水汲みを終えて、急いで学校に行っても、遅刻してしまうこともよくあったの。」とイルダちゃん。集落では、これまでに、イルダちゃんのお父さんを含む住民も参加して、10の給水設備が建設され、95世帯が家の近くで安全な水を入手できるようになりました。「今は家から10メートルのところで水浴びができるし、食事の前に手も洗えるわ。妹の体を洗ってあげられるようになったことも、とても嬉しいです」。

担当：三浦スタッフのコメント

小規模の水道建設は住民が無償で行うため、作業の進捗は、住民の意欲や集落内の連帯感に大きく左右されます。集落によっては事業の進みが遅く、苦労することもあります。しかし、建設された水道を使う子どもたちを見ると、支援が子どもたちの生活にもたらすインパクトの大きさを実感でき、困難を乗り越えて、活動を達成できた意義を感じます。

3年目となる今年度も、より多くの人たちの生活を改善できるように頑張っていこうと思っています。募金へのご協力に感謝するとともに、引き続きあたたかいご支援をお願いいたします。

駐在中の三浦スタッフと地域の子どもたち

スリランカ民主社会主義共和国 ー牛のミルクが元気の素！ー

支援地域の状況

26年にも渡って続いたスリランカの内戦は、2009年5月にようやく終結を迎えました。激戦で多くの犠牲者を出した北部州では、避難民キャンプでの生活を余儀なくされていた人々が、ようやく故郷へ帰還できるようになりました。キリノッチ県では、故郷に戻ってきた多くの住民が、家畜で生計を立てて生活を再建しようとしていますが、内戦の影響で獣医が不足しており、家畜が死んでしまったり、病気になったりして、なかなか収入を得られず困っていました。また卵や牛乳も手に入りにくい状態でした。

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動

WVJは地方政府の家畜生産衛生局、家畜生産者組合、JICA（国際協力機構）と協力しながら、30名の畜産の普及員を養成しています。普及員は家畜生産者組合に所属しながら、予防接種や人工授精など家畜飼養に必要な基本的サービスを畜産農家に提供し、家畜の適切な飼育方法についての指導も行っています。

予防接種や病気や怪我の際に応急処置を施すことができるようになったため、畜産農家は家畜を失うことがとても少なくなりました。また人工授精によって仔牛が生まれ、適切な飼育方法が普及してきたことによって牛乳の生産量も増えています。このような普及員の働きにより、多くの畜産農家が家畜を殖やし、より多くの収入を得ることができるようになったのです。

また卵や牛乳の生産量が増え、地域の子どもたちの栄養改善にもつながっています。幼稚園では政府のプログラムによって、園児たちに牛乳が提供されることになっていますが、以前は牛乳が入手できないために、園児が牛乳を飲めない日もよくありました。今では、安定して牛乳が入手できるようになり、園児たちは毎日の牛乳をとても楽しみにしています。経済的に貧しく、自宅で充分な食事を摂れない子どもがまだ多い中、幼稚園での牛乳は子どもたちの大切な栄養源になっています。

牛に予防接種をする普及員

牛乳を飲む幼稚園児

「子どもたちが泣かなくなりました」

キンシーさんは、キリノッチ県の幼稚園で先生をしています。

「内戦が終わり、この村に戻ってきた5年前から、私はここで先生をしています。4年前から政府による牛乳給食が始まりましたが、牛乳がなかなか手に入らず、ずっと困っていました。午前中、幼稚園を抜け出して、近所の農家へ牛乳を買いに行っていましたが、何軒も足を運んだ末、買えないこともよくありました。この幼稚園には園児が14名いますが、先生は私一人だけ。鍵はかけましたが、幼稚園に子どもたち残して出かけるのは、とても心配でしたし、子どもたちはいつも泣いていました。

昨年、WVの活動が始まり、地域の家畜の数が増え、牛乳も手に入るようになりました。また普及員が所属する家畜生産者組合が仕組みを整備してくれたので、今では農家が幼稚園に必要な量の牛乳を持って来てくれるようになりました。お陰で、今はずっと園児たちと一緒にいることができるし、牛乳も毎日飲ませてあげられるようになりました。栄養状態も少しずつよくなってきましたし、何より子どもたちが泣かなくなりました。」

キンシー先生と牛乳を飲む子どもたち

担当：岡崎スタッフのコメント

キリノッチ県の住民の多くにとって、特に寡婦や高齢者、障がい者、子どもの多い世帯にとって家畜は命綱です。家族の命を支える大切な収入源、栄養源なのです。それだけに、畜産農家からの「獣医さんが来てくれない」という声は切実でした。今は30名の普及員がキリノッチ県の畜産農家6000世帯の命と生活を守っています。また彼らは子どもたちの「ヒーロー」でもあります。以前は幼稚園を訪問すると、お腹を空かせて泣いている子どもがたくさんいました。今は、子どもたちが牛乳の入ったコップを両手で大切そうに持ち、神妙な顔つきで一口一口味わいながら飲んでいる光景に出会います。「牛乳好き？おいしい？」と聞くと、どの子からも「うん、大好き！おいしい！」という返事と輝くような笑顔が返ってきます。皆さまのご支援を感謝いたします。

駐在中の岡崎スタッフと地域の子どもたち

クリスマス募金は、一部を上記以外の活動にも用いさせていただきました。

●募金についての問い合わせ先　特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン
〒164-0012 東京都中野区本町1-32-2　ハーモニータワー3F
TEL：03-5334-5351　FAX：03-5334-5359　Email：dservice@worldvision.or.jp

ワールド・ビジョンは、キリスト教精神に基づいて開発援助、緊急人道支援、アドボカシー（政府や市民への働きかけ）を行う国際NGOです